

第 5 5 回 病 診 連 携 委 員 会 要 録

日 時 平成26年7月28日（月） 午後7時45分

場 所 浪速区医師会 会議室

出 席 者 浪速区医師会 : 10名

南 医 師 会 : 1名

愛 染 橋 病 院 : 2名

大 野 記 念 病 院 : 2名

浪 速 生 野 病 院 : 2名

多 根 総 合 病 院 : 1名

富 永 病 院 : 2名

大 和 中 央 病 院 : 3名

内 藤 病 院 : 1名

育 和 会 記 念 病 院 : 2名

千 本 病 院 : 1名

日 生 病 院 : 2名

大 阪 市 消 防 局 : 1名

地域包括支援センター : 1名

居宅介護支援事業者連絡会 : 1名

浪速区医師会事務局 : 1名

今回は日生病院、大阪市消防局より参加があった。また今回より南医師会より出席していただく先生が変更となった。

議 題

1. 第54病診連携委員会報告について

前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。

2. ブルーカード事例検討等報告について（多根総合病院）

多根病院より神経内科と循環器内科の合同勉強会を開催予定（8月28日）との告知があった。

3. 病診連携委員会のアンケート結果について

《地域連携室に対しての質問》

質問1 救急対応について、消防局との連携がうまくいかなかったことはありますか？また、救急対応で困った事例はありますか？

全体的にはスムーズに行けている印象であったが、一部搬送時の連絡不十分で現場の混乱があるケースが散見された（精神疾患の有無、交通事故の受傷状況、搬送前の報告と病院到着時の相違、発熱有無など）。

質問2 今後、貴病院において、病診連携において特に重視していくジャンルに○をしてください。かつ貴病院での指針がありましたら教えて下さい。

	糖尿病	癌	心疾患	脳卒中	肝疾患	CKD	認知症	その他
愛染橋病院					○			消化器 呼吸器
育和会記念病院	○	○	○	○	○			
	救急と病診連携が最重要項目です。							
大手前病院		○	○					

大野記念病院	○					○		大腿骨頸 部骨折
千本病院								○
	末期がん患者や人工呼吸器を付けている患者等の終末期医療を積極							
大和中央病院	○	○	○		○		○	
多根総合病院	○	○	○	○	○			
富永病院			○	○				

《開業医への質問》

質問 現時点で病診連携疾患パス（クリニカルパス）を利用されている開業医にお尋ねします。

- ① 今までのパスは有効だと考えますか？
有効なツールとしては考えられるものの、実質的には使用したことがないと答えた医師が大半であった。
- ② 具体的にどんなパスをどの程度利用されていますか？
堺市立病院の癌診療連携パスや警察病院泌尿器科の前立腺がんパスが挙げられた。
- ③ 今後、病診連携において疾患連携の先生方の考えを教えてください。
厚労省が推奨する5大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）から勧めるべきとの意見、クリニカルパスを適応時には事前に十分患者説明と理解が必要とする意見などが挙げられた。

《包括ケアマネへの質問》

質問 今まで患者さんの医療情報がわからなくて、困ったことがありますか？
また、それは訪問看護師さんとの問い合わせで解決しましたか？

（居宅介護支援事業者連絡会）

急性期疾患後や医療度の高い方の退院後に、医療情報がすぐにももらえずケアが難航したことがあった。自身で病院に出向き情報を得て解決した。

（包括支援センター）

要支援1・2の利用者の場合は、本人と一緒に通院することで把握する、または、主治医の意見書を参考にする。要支援の間は、訪問看護を利用することは、少なく、あっても、訪問看護の理学療法士によるリハビリが多いとのこと。

4. 大阪市消防局からの報告について

大阪市全体として平成25年度の救急出動件数は22万件（1日当たり603件）そのうち約17万人が病院へ搬送されていた。浪速区では7917件（5997名が病院へ搬送）されていた。ブルーカードを使用した症例は20件であった。それらに関しては別紙で時間経過（出場から到着まで）を掲載していただいた。その結果、ブルーカードを使用した際、出勤から到着までの時間が平均8分短縮されたことがわかる。内容としては搬送先を選定する時間の大幅な減少が認められることと（5分の短縮）、近隣の病院に搬送できる利点より短縮（3分の短縮）できていることが分かる。20件中9件がブルーカードの提示がなされていた。

5. 日生病院の連携病院参加について

まずは二次連携病院としての参加を予定。救急搬送は受け入れるが、ブルーカードシステムのような多施設との連携となると混乱が予測されるため、まずは二次連携としての参加を希望とのこと。医師会としては、できれば後方支援病院として内科だけでも一次連携病院として参加していただくことを期待したく、その件に関して持ち帰って検討していただけるとのこと。日生病院としては、内科を中心としは救急診療センターを立ち上げてますます救急疾患にも力を入れていく方針とのこと。

6. ブルーカードの様式について

最下段の項目で『在宅後方支援病院への情報提供書を兼ねる』と記載することに。大野記念病院、愛染病院、日生病院が現在のところ手あげをいただいている。

3か月更新で変化がなくても送付またはFAXする必要がある。

7. 「iProject」について

経産省からの公募で承認されたプロジェクトであり、一つの疾患に対し、病院と診療所同士が情報を共有すること、また、包括支援センターに介護情報を集約させて、介護者（介護情報）と医療施設側（iProjectのデータ）を共有して地域的な医療包括にしようとするのがProject blue iである。

8. その他

ブルーカードの全登録件数 587件、使用状況 702件、6月1日からのカード動向 30件（新規7件、入院・搬送など10件）。

次回会議予定 平成26年8月25日（月）午後7時45分～